学校法人 内田学園　　七沢希望の丘初等学校

ぼちぼちいこか

学校だより７月号　　2024.6.28 発行

教育理念
生きる喜びを抱き
自ら学びを拓く

ゆっくりもいい　ゆっくりがいい

校 長　大谷 京司

６月の曇天のある日、学校の坂下のお地蔵さんから駐車場へ向かう途中のお宅の石塀でカタツムリを見つけました。最初に目にしたのは３㎝程の成体のカタツムリでしたが、ふと目を下の方に向けると、なんとそこら中に数えきれないくらいの赤ちゃんカタツムリがいるのを発見しました。殻が黄色味を帯びており、とてもきれいでした。なかなか最近は見かけなくなったカタツムリですが、私が意識して見ようとしていなかっただけかもしれません。

カタツムリと言えば、２年生の国語の教科書に出てくるアーノルド・ローベル作「お手紙」で、がまくんへのお手紙をかえるくんがかたつむりくんに届けてもらうよう託した場面を思い出します。誰からもお手紙をもらえず気落ちしていたがまくんにかえるくんがお手紙を出しますが、かたつむりくんが到着したのは４日後。その間、２人は手紙が届くのを幸せな気持ちでゆっくり待っていました。

何事も短い時間で効率よくというのが求められる時代になっていますが、子どもの成長には、ゆっくり非効率なことが大事な場面も少なくないかと思います。例えば、食後の食器洗いを子どもに手伝ってもらうと、流しの周辺が水浸しになり、時に食器を割ってしまうこともあるかもしれません。叱責して代わりに大人がすべて行ってしまうことは容易いのですが、一緒に行いながら要領を教え、手伝おうとしてくれたことへの感謝の言葉を伝えるだけで、子どもはまた自分で前に進むことができます。人のために自分の力を発揮することの尊さを無意識のうちに理解するでしょう。次の日も同じ失敗を繰り返すかもしれませんが、その時もまた同じように一緒に行い、感謝することで、ゆっくりですが子どもは確実に成長することと思います。

アーノルド・ローベル氏の作品を数々翻訳してきた三木卓氏の講演を聞いたことがあります。三木氏が手掛けている児童文学は、やがて子どもが自ら大きく輝くための種火をつくっているようなものだといった趣旨のことを言われていました。

私たちの仕事もまさに子どもの内なるエネルギーに小さな火を灯し、子どもが自ら前に進もうとする力をつけてあげることだと思っています。１学期もあとわずかとなりましたが、日々の子どもたちとのやり取りの中で、「生きる喜び」を実感できるよう、子どもたちの「希望」に寄り添っていきたいと思います。

ファミリーフェスタに向けて

７月６日（土）のファミリーフェスタ 2024 に向けて、子どもたちは、おみこし作りや縦割りグループごとに考えたゲームコーナーの遊び道具作りに夢中になっています。

今年のおみこしのテーマは、「七沢発見伝」ということで、虫眼鏡で発見したさまざまな七沢の自然を表現します。ゲームコーナーのゲームも様々な工夫が施され、なかなか簡単にはできません。教員も子どもたちの発想を大事にしながら、一緒になって楽しく制作に関わっています。それぞれのゲームを楽しんでもらう料金も子どもたちが決定し、野菜作りの収益と共に６年生の修学旅行で活用してもらう予定です。

「くらし」の授業　クリーン大作戦＆調理

総合学習の「くらし」の授業では、縦割りグループで校舎内外のクリーン大作戦と収穫したじゃがいもを利用した調理を行いました。

クリーン大作戦では、それぞれのグループにミッションが課され、ゴミ拾いをしたり、窓ふきや扇風機・換気扇の掃除をしたり、図書の整理をしたりしました。大変な作業もありましたが、上級生がうまくリードしながら、すべてのミッションをクリアすることができました。

調理では、じゃがバター、ヴィシソワーズ、ポークピラフに挑戦しました。ピラフは飯盒で炊き上げましたが、こげも結構できたものの味はしっかりとなかなか上出来でした。

じゃがバターの３種食べ比べでは、キタアカリが子どもたちには１番人気でした。

姿を変える大豆プロジェクト

昨年度、猛暑の影響もあり、不作の大豆でしたが、今年は豊作を願い、みんなで種まきしました。ちょうど７月に月が変わる頃、一斉に発芽すると思いますので、学校に来られた際にはのぞいてみてください。

ハンモック復活

少しずつほつれが広がり危険な状態になって撤去されたハンモックでしたが、修理・修繕委員会が新しいハンモックを以前の場所に取り付けてくれました。